



地域医療連携室だより

Community Healthy Network News

共に診る・共に支える地域医療



地域に求められる病院をめざして

平鹿総合病院 副院長
地域医療連携室 室長 榎本好恭

平素より地域医療連携室へのご理解とご協力をたまわり、心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は収束する気配がみえず、医療機関、介護施設、福祉関係の方々、住民の皆様におかれましては、不安な日々が続いていることと思います。

さて、このコロナ禍のなか、本年4月より地域連携室室長を務めることになりました。

これを機に、6月から7月にかけて、横手市、美郷町などで内科を標榜する計36の診療所を訪問しました。まさに地域医療の最前線である診療の現場でご挨拶させていただき、改めて先生方が地域に根ざした医療をしていることを認識し、当室業務の重要性を感じた次第です。

秋田県の医療を取り巻く現状は非常に厳しく、医師不足、医師の地域偏在、診療科偏在は大きな問題となっています。秋田県南の医療において、当院が担う役割は大きく、地域の事情にあった診療体制の構築は急務であり、病院全体の問題として考えております。

今後とも地域の方々が安心して過ごせるよう努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

もくじ

地域に求められる病院をめざして	①
連携医療機関・介護福祉施設のご紹介	②
新任のご挨拶	③
トピックス	④

連携医療機関・介護福祉施設のご紹介

診療偶感



沢口内科医院 院長
沢口 常康



地域連携室の皆さんには、日頃紹介患者さんの受け入れから退院後の方向づけまで多くのコメディカルの方々との仲介業務をとって頂き、大変感謝致しております。人口の減少と超高齢化に伴い、地域医療はいま「治療から看取り迄幅広いトータルケア」を要求されております。この様な状況下、私にとって地域連携室は「寄らば大樹の蔭」であります。

当院の貴院宛の診療情報提供件数は、令和元年100件中33件、令和2年上半期76件中27件で、紹介先としては最多の割合を占めております。日頃の診療を通して感ずる事は、90歳代の通院患者さんもめずらしくなくなりました。又、独居の高齢者もさらに多くなりました。つい8月も、94歳の独居者で玄関で転倒、動けなくなり、その場に2日間臥位のまま来訪者に発見され、乞われて往診、大腿骨骨折で貴院に入院させて頂きました。90歳代の大腿骨骨折症例を直近1年間で5例経験しました。予後を見ると複雑な思いです。これからも無理難題を押しつける事になるかもしれませんが、宜しくお願いします。

暮らしの安心と健康長寿のお手伝い



横手市役所市民福祉部
地域包括支援センター
保健師副主幹

佐藤 学



持病の悪化、転倒骨折、思わぬ病気の発見など、高齢になると様々な理由で入院を余儀なくされることが多いです。入院と同時に思うことは、元の生活に戻れるのかという不安な気持ち。本人のみならず、家族にとっても一大事です。当センターでは、こうした不安を抱える市民の皆さまが安心して地域で暮らせるお手伝いをしています。その一つに介護認定の申請があります。退院後の生活に不安を感じる部分を介護保険のサービスでサポートする制度ですが、ここで大事なことは「サービスの対象となる方がもっている力を可能な限り引き出す」お手伝いをすることです。よかれと思って提案したヘルパー訪問、デイサービスなどが、逆に生活意欲の低下につながっていないかということです。もう1点は、介護を受け入れる家族の気持ちです。「介護」が始まることで生活は一変します。そのため、生活が変わる覚悟と上手な息抜きが必要となります。最後に、誰もが望む健康長寿のキーワード「何かに夢中になれる時間」です。人生百年時代、自分の健康を守るための時間を作ってください。

新任のごあいさつ

令和の“和”



平鹿総合病院 副院長
地域医療連携室 副室長

堀川 洋平



この4月より、副院長および地域連携室副室長を仰せつかりました。
数年前に消化器糖尿病内科の診療部長を拝命した際、病院機関誌「絆」に以下の如く記載しています。

“科を運営する際の心がけは、「個性を生かす」こと。大人の医師には、自分のスタイルがあり、もちろん長所短所もある。皆が画一的である必要はなく、各々の個性をチームの和の中で発揮し、補い合うことで、総じてよい仕事に繋がっていくものと考えています。それが個人ではなく、チームで仕事をする上での、最大のアドバンテージであると思っています。”

私の活動のフィールドが、病院管理職になろうとも、地域の先生方との連携職になろうとも、チームの“和”をもとに仕事をするという信念は変わりません。地域医療に関わる多くの方々や、皆が没頭して取り組んだ仕事の間を繋ぐのが、自分の職責であると考えています。

一方、専門領域においては、「先進的な内視鏡診断と治療」「魅力を発信するための学術活動」そして「後輩たちの指導」が、自分の柱と考えています。今後は横手平鹿地域のみならず、県南全体の消化器診療に貢献できるように努力して参ります。これからもご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

自分らしく 生きる



平鹿総合病院 副院長
看護部長

佐藤 やよい



平素より、地域の医療機関の皆様には、病診連携に際し多大なご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本年4月、副院長看護部長として着任しました佐藤やよいです。よろしくお願い致します。

今、2040年問題が現実味を帯び、地域医療構想実現に向けた取り組みが進められています。

当院は、二次医療圏において地域医療を支える中核的な役割の他、県南の三次救急医療機関として、日々地域住民の皆様健康と命を守るよう努めております。

その中で、私たち看護師の役割は、患者さんの意思を尊重し、住み慣れた場所で自分らしく生きることを支えることにありと認識しております。そのために、今年度から地域医療連携室、入退院支援部門を統合し、医療相談、訪問看護等との連携を強化しながら、入院時から退院後の生活を見据え、早期から継続的な関りができるよう支援体制の見直しを図っているところです。看護部の理念は、「患者さんが気持ちよく、そして自分も気持ちよく」です。患者さんの最も身近な存在として不安や問題に共に向き合い、看護の専門性が発揮できるよう仕事の仕組み等について検討を重ねて参ります。

新型コロナウイルス感染症への対応も含め、地域の基幹病院として「できること」「やらなければならないこと」をきちんと実践し、地域の皆様の信頼と満足が得られるよう職員一丸となって取り組みます。今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。

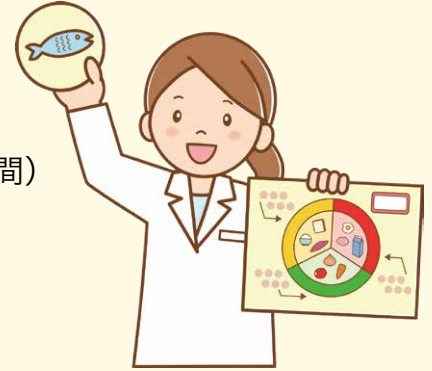
糖尿病 栄養食事指導のご案内

栄養科

当院栄養科では、地域の診療所・医院などに通院されている糖尿病患者さんを対象に、かかりつけ医の紹介により栄養食事指導をお受けしております。

合併症の予防のため、患者さん一人ひとりの病状やライフスタイルに応じた食事改善の方法についてアドバイスいたします。

どうぞお気軽にご利用ください。



日 時

平日（木曜日・金曜日） 15:00～17:00（およそ1時間）

場 所

栄養相談室（1階）

費 用

外来栄養食事指導料 初回：260点 2回目以降：200点

その他、初診料（288点）・再診料（74点）が加わります。

※患者さんの健康保険の自己負担の割合（1～3割）によって、お支払いいただく医療費が変わります。

依頼方法

予約制です。

専用の申込書をご用意しております。地域医療連携室へお問い合わせください。

指導のポイント

- 無理なく継続ができる食事方法
- 旬の食材を取り入れた料理の工夫
- 外食や市販の惣菜のとり方
- 食品の選び方・量・形態・調理方法
- 患者さん・ご家族との信頼関係を大切に

高血圧、脂質異常症、心臓病、腎臓病、肝臓病、がん、摂食・嚥下障害、低栄養、小児肥満などの栄養食事指導も行っております。

ご希望の際は、地域医療連携室へお問い合わせください。

地域医療連携室スタッフ

室長 榎本 好恭
副室長 堀川 洋平
看護師 大日向久美子
大沢 知佳
事務 橘 善幸
中嶋 秋子

平鹿総合病院

〒013-8610 秋田県横手市前郷字ハツ口3番1
代表 TEL:0182-32-5121 FAX:0182-33-3200
URL: <http://www.hiraka-hp.yokote.akita.jp/>

地域医療連携室

*月曜日～金曜日（土日祝日除く）8:30～17:00
時間外は救急センターへご連絡をお願いいたします。
直通 TEL:0182-45-6012 専用 FAX:0182-32-0698
E-mail: tiiren@hiraka-hp.yokote.akita.jp